

第3回 医療体制のあり方検討委員会 議事概要

1. 日 時 令和6年8月1日(木)19:00～21:25

2. 場 所 志摩市役所

3. 出席者 日比委員(委員長)、山本委員、堀井委員、嶋崎委員、楠田オブザーバー

4. 議 題

1. 第2回会議の概要と第3回会議の議論のポイント
2. 志摩地域の医療(役割分担の明確化)について
3. 志摩地域の医療(地域枠推薦の活用に向けた課題への対応)について
4. 志摩市民病院の役割について
5. 志摩市民病院の運営形態について

5. 内 容

1. 第2回会議の概要と第3回会議の議論のポイント(資料 P2～3)

[事務局から説明]

- 前回(第2回)検討委員会での議論の概要について説明
- 前回(第2回)検討委員会の議論を踏まえて、今回(第3回)検討委員会で議論していただきたいことについて説明

[主な質疑等]

- 質疑なし

2. 志摩地域の医療(役割分担の明確化)について(資料 P4～5)

[事務局から説明]

- 志摩地域の医療体制としての役割分担(最終案)について説明

[主な質疑等]

- 志摩市民病院は在宅医療の3つの機能(日常の療養支援、急変時の対応、在宅での看取り)と、初期救急の4つの機能を持つことになるが、医師の人数としてどのように想定しているのか。

→常勤医師が5名と非常勤医師が常勤換算で3名の計8名。

○志摩市民病院は、災害時の志摩町・大王町の拠点となるが、そのためには、備品等の準備も含めて体制の整備をしていく必要がある。薬剤や電源、水の確保、透析患者への対応など整備が必要である。

→災害対策委員会を立ち上げ、訓練の実施、BCPの整備を進めていく。

3. 志摩地域の医療(地域枠推薦の活用に向けた課題への対応)について(資料 P6)

[事務局から説明]

○地域枠推薦の活用に向けた課題と対応について説明

[主な質疑等]

○市の事業として、医学部の学生を志摩に招いて勉強会や交流会といったものができるといいのではないか。市の事業なので、志摩市民病院だけでなく、県立志摩病院も含めて、そこに三重大学にも協力してもらえるといい。

○市独自の奨学金は、志摩市で働いてもらう人材の確保という意味でいいと思う。例えば、空き家の活用などで、一緒に住むところの提供ができるとよりいいのではないか。

→今後、検討していく。

4. 志摩市民病院の役割について(資料 P7)

[事務局から説明]

○志摩市民病院の役割(最終案)について説明

[主な質疑等]

○訪問看護、訪問リハビリのニーズが高い現状があり、自立支援や重症化予防に取り組むとなると、積極的なアウトリーチが必要となる。どのような体制を組んでいくかが課題である。

○志摩市民病院の役割としては、急性期から志摩に戻ってきた方の在宅復帰の部分と、透析が大きいと思われる。

○志摩市民病院は、特殊なことではなく、健診(検診)や予防接種を含めた、かかりつけ医機能を求められている現状があると考える。

5. 志摩市民病院の運営形態について(資料 P9~15、別紙資料)

[事務局から説明]

○志摩市民病院の運営状況について説明

[主な質疑等]

- 医業収益に対する職員給与費の比率が 91%と高い原因がどこにあるのかを考えて、改善していくことは必要と考える。
- 雇用についての課題である医療事務や事務職員の確保では、年次ごとの人事異動により専門的な知識が蓄積していかないということで、公立病院だからこそその課題であるのかもしれない。
- 独立行政法人が現実的ではないということになると、指定管理という方向になるのか。
→市内医療機関との連携や役割分担、志摩市民病院としての人材確保といったことも考慮し、直営も含め総合的に考えていく必要がある。
- 志摩市民病院として、志摩市での医療の役割を果たす上で、療養病床と地域包括ケア病床の病床数をどうするかということも鍵になってくるのではないか。
- 地域として、医療を総合的にみていくといった方向の可能性はあるか。
→市民病院と市内の複数の診療所を、ひとつの法人が指定管理で受けているといった他市の事例はある。病院と診療所間で人事交流が盛んに行われ、医師や事務職員の確保も柔軟にできている状況はある。
- 志摩市民病院の一番の強みは何か、透析と地域ケアなのか、といったことを重要視して、思い切った改革をし、競争力のある形に整えていく必要がある。

※ 本日までの検討委員会での議論を整理し、市長に向けた提言として取りまとめていくことで、委員全員が了承した。